

神戸市・天津市友好都市提携30周年記念 芸術祭に寄せて

於：10月15日(水) 神戸文化ホール(中)

神戸市と中国・天津市の友好都市提携30周年を記念し、10月15日(水)に行なわれる芸術祭。中国民族楽器、日本舞踊、中国舞踊、ミュージカル、コーラスなど、神戸市、天津市からさまざまな団体が参加し、音楽で祝い、交流を深める。芸術祭を前に、実行委員、出演者の皆さんに期待を込めて語っていただいた。



神戸市花・あじさい



天津市花・月季花

友好都市の中でも 関係の深い神戸と天津

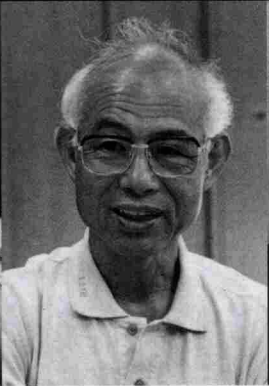
藤本 神戸市と天津市が姉妹都市提携を結んだ前後のお話からさせていただけますか。1972年の10月に、中国と日本の国交が正常化されたわけですが、その当時の神戸は日本でいちばん大きな港であり、中国との貿易も、3割から4割ほどが神戸港から入ってきました。そして以前から多くの華僑の方々が神戸で商売をされていたというので、神戸は中国との窓口としての役割をはたしていたといえます。国交回復の議論があったころから、当時の宮崎神戸市長が、正常化すればぜひ中国のどこかの市と姉妹都市を結びたいとおっしゃられていました。そして、国交が正常化した10月に、宮崎市長が団長となって、青少年の水泳の訪問団が中国へ行ったのですが、そのときに周恩来先生にお目にかかり、周先生から天津市をご紹介いただいたとのこと。翌年、1973年6月に、姉妹都市、中国とは友好都市といいますが、提携を結びました。以来、港の関係や、特に動物の交換が多く、キンシコウや、最近では話題のパンダも天津のご尽力もあって来神が実現しました。30年のあいだに、本当に市民レベルでの交流がさかんにになりました。先月(9月)に

は、天津の戴市長や経済界の方19名が来日されました。今回、神戸商工会議所と天津の経済界との提携の話があり、その調印も合せて行なわれました。そして10月には、矢田市長はじめ多くの市民の方々が天津を訪れ、市民レベルの交流が予定されています。

— 皆さんは天津市との交流の思い出はおありですか。

張 神戸中華同文学学校の李万之先生が天津出身だったので、神戸と天津の友好にご尽力されたというお話を伺っております。李先生のお嬢様と、ご子息様、そして蔡先生と私は同級生だったので。1972年に、神戸中華同文学学校長会コーラスの指揮で、私が初めて中国に行きました折に、友好都市である神戸から来たということ、天津で大歓迎を受けました。そのときにご尽力くださったのが、李先生のお嬢様、李曉さんでした。天津には何度か行きましたが、やはり友好都市だということ、いつもすばらしいおもてなしを受けました。すてきな思い出がたくさんございます。

蔡 僕と天津との関わりは、神戸中華同文学学校小・中学校の音楽の先生を招いていたときに多くありました。中国民族音楽を教えてください。中国民族音楽を教えるため、僕たち日本在住の教師は民族楽器ができないものです



高城逸朗さん

＜関西マンドリン連盟会長・
タキ総合研究所代表＞

沈 兵さん

＜中国揚琴演奏家＞

蔡 勝昌さん

＜国際音楽協会副理事長＞

藤本義兼さん

＜神戸市生活文化観光局長＞

張 文乃さん

＜国際音楽協会理事長＞

から中国から招いたので。昨年まで毎年、16年間ほど招いており、今では民族楽器の合奏団もできています。天津との出会いというよりは、教師を通じて関わっていましたね。

高城 自身は天津に行ったことはないのですが、天津出身の歌手・范丹陽さんのファンクラブの代表幹事をしているということが天津との関わりでしょうか（笑）。范さんも今回の芸術祭に出演されますね。日頃「南京町の歌姫」として歌手活動を続けておられますが、歌を通じて日中の架け橋になりたいとの思いに期待しています。それから私はマンドリンに関わっていますので、関西マンドリンフェスティバルや大阪芸術祭マンドリンフェア等には、今はメジャーになった古箏奏者・伍芳さんや、二胡、中国琵琶、揚琴、竹笛など、在日の中国人各演奏者にもゲスト出演していただきました。2000年10月にはマンドリニスト60名で訪中し、上海、南京で演奏会を開いたほか、昨年10月には上海から伝統楽器奏者3名を招き、京都と神戸でコンサートを開きました。今度はぜひ天津に行こうと張先生に誘われていますよ。

沈 私も天津には行ったことがないんです。でも張先生のおかげで、この芸術祭に参加することができてとても嬉しいです。

——この30周年芸術祭が開かれるきっかけは何だったのでしょうか。

張 王泰平総領事の奥様・王慧聡さんにお会いしたときに、「今年には神戸市と天津市の友好提携30周年ね、何かイベントをしてくださいなね」と言われ、私に何ができるかと思い、ずっと考えておりました。とにかく皆さんでお祝いできたらいいなと、いろいろなジャンルの方にご参加をいただきました。王慧聡さんにはまずご覧いただきたかったですけれど、任期満了でお帰りになってしまったこのことで、とても残念です。いいアイデアを出していただいたので。このような大きなイベントに対しての芸術祭というのは、今までなかったし、出演者も盛りだくさんなのです。出演者の年齢も、6歳から90歳までと幅広く、スタッフも全部入れますと250名くらい。出演者の皆さんは、本当にがんばっていらっしやるのでとても嬉しく思っています。プログラムは、藤間莉佳子さんが踊る藤間流の祝舞に始まり、最後は中国の獅子舞、とてもおめでたいステージになると思います。

蔡 神戸には1000か国以上の人が住んでいます。私はいつか、そのすべての国々の人が参加する芸術祭を開催できたらと思っています。今回は日本と中国ですが、これをきっかけに、神戸に住

む各国の人々が一堂に会する芸術祭ができたらいなと願っています。以前、兵庫県にも、日本在住の外国人を集めてオリンピックをしたかどうかと言ったことがあるのですが(笑)、そういう市民レベルでの、日本に住む外国人と日本人との交流ができたらしろいと思います。

張 NPO法人国際音楽協会を立ちあげたからこのような大きなお仕事をさせていただけようになつたので、本当に感謝しています。スタッフの皆さんは、本当に手弁当でがんばってくださっているのですよ。

藤本 こういった芸術の交流、またスポーツの交流などで、天津市との市民レベルでの交流はとてまさかですね。姉妹都市の中でも、特に天津市とシアトルとは、市民レベルでの交流がさかんに行なわれています。

——今回の芸術祭、出演者の方はいかがですか。

沈 私が弾く揚琴という楽器のことは、日本ではあまり知られていないのではないのでしょうか。中国の民族楽器というのと、日本では二胡が有名ですが、揚琴は初めての人が多いですね。揚琴の特別な音色をたくさんの人に聴いていただきたいと思います。音楽は国境がないです。音楽を通じて、中国と日本の心の交流をしたいと思いま

す。今、私は大阪に住んでいます。が、神戸は大好きです。南京町には中国のものもいっぱい売っていて、私のふるさとに来たみたい(笑)。

蔡 沈兵さんには関帝廟の月見の会にも何回か演奏に来ていただきましたよね。

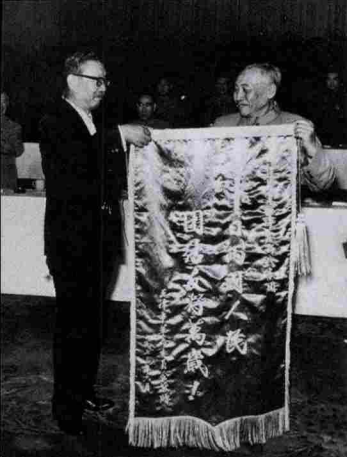
高城 今回、沈兵さんをはじめたくさんの方々の中国の演奏家の方々と縁ができて嬉しいです。張先生からマンドリンとコーラスと一緒に演奏したいとお申し出があり、1981年のポートピア博のときに、来日したドイツとオーストリアのマンドリンアンオーケストラと、日本のマンドリン合奏団、神戸中華同学校校長会コーラスなどの合唱団とが「美しき碧きドナウ」を合奏したことがあったので、そのときの再現ではないですが、同じ曲を演奏することになったわけです。またマンドリンオーケストラは、関西マンドリン連盟加入団体であるグループアルゴ、宝塚ギターマンドリンオーケストラとアンサンブルF.I.L.O.、プリマベラなどの有志が、指揮者・恩地早苗さんのリーダーシップよろしきを得て、神戸港のセレナード、日本抒情歌集を単独演奏することになりました。合唱団の皆さんとは、日中友好マンドリンオーケストラ&コーラスとして「茉莉花」「美しき碧きドナウ」の2曲を演奏する

のですが、急ごしらえ(?)といえ、その仕上がりが楽しみです。**張** 「移情閣コーラス」が創立15周年を迎えたときに、作家の陳舜臣先生に、あなたたちは歌声で日中友好の架け橋になったと、『かささぎの橋』というすてきな詩をちょうだいしたのです。詩を読むだけでもよかったのですが、私たちは合唱団なので曲をつけてみました。皆さんとても喜んでくださって、なにかの記念のときはぜひ歌いましょうということになり、「飛んできました15年」という歌詞ですが、20年のときは20になり(笑)そこは何周年というときには変えられるからと陳先生もおっしゃっていましたので、今回は30年と歌います。今回は冒頭で、日本のお琴で合わせてみようと思っています。

これから市民レベルでさまざまな交流を

——シアトルとの姉妹都市提携も節目を迎えるとか。

藤本 シアトルとは、昨年45周年を迎えました。7つの姉妹都市のうち、来年はリオデジャネイロと35周年、リガと30周年を迎えます。もっともっと市民レベルでの交流が深まってほしいですね。中国の方にも、もっと日本に来ていただきたい。芸術の分野での交流が深



↑天津市の尽力で来神、人気のパンダ
←1973年、友好都市提携を結び、旗を掲げる天津市長、
宮崎神戸市長



1985年に天津から来た金絲猴（キンシコウ）

まっぴらほしいですね。文化庁の長官が、関西を文化力で元気づけようと言っておられました。が、芸術文化というのは人の心に元気づける、勇気をつけますから、そういった意味でもっと芸術文化の交流がさかんになればと思います。

張 私たちが今しております中国音楽コンクールでも、中国から演奏家、指導者を招き、中国の独特の流れを神戸、日本に吹き込んでいただければと思ってやっているのです。

高城 今回の芸術祭も、文化庁後援と河合隼雄文化庁長官の力強いメッセージがいただけたのは幸いでしたね。「関西から文化力」のロゴマークも使用、「格付け」ができたと思います。

蔡 いちばん大事なのは市民レベルの交流でしょうね。

張 以前、神戸・天津友好都市提携25周年のときに、ぜひ市民レベルでの音楽祭をということで、神戸中華同文学校家長会コーラスを連れて中国に行きまして、そのときの受け入れが天津市の大学の先生ばかり60人ほどを集めた教授合唱団でした。音楽の教授ばかりでなく建築や科学者、ジャンルを問わず音楽好きな人を集めた合唱団です。この教授合唱団をぜひ日本に招いてほしいと言われ、いまだ実現できていないのです。神戸のいい思い出を作ってお帰りたいだ

きたいので、資金面でなかなか工夫できず、毎年の願いではあるのですが。それからもうひとつ、震災では神戸でたくさん中国からの留学生が亡くなっていますから、そのご両親をお呼びできたかと思っています。それから日本と中国の子供たちとの歌の交流をと、私も2回ほど児童合唱団子供たちを連れて中国に行きました。そこで、自分たちの生活と、中国の子供たちの生活のちがいを目の当たりにしたときに、「ぼく、もっと一生懸命勉強せなにかん」と言った子供がいたのですよ。自分も祖国のために勉強してがんばりたいと、ひとりの男の子が言ったのです。それを聞いたときに、ああ連れて行ってよかったなと思いました。

日本にいたら、暑いといったらクーラーが入りますが、中国では、それこそ舞台の上は35度くらいあり、なおかつ照明が入って、その上衣装をつけお化粧をして、暑いという言葉ひとつ言わない姿を見て日本の子供たちがとても勉強になったと、親たちも感心していました。

沈 私も仕事だけじゃなくて、たくさん日本の出演者との交流を大切にしたいです。このチャンスを大切にしたいですね。



観光特集 ③ 提言座談会

神戸の街はテーマパーク 遊覧路面電車を走らせよう!!

— 人と人との心がかよいあい、交流が生まれ
活気にあふれる元気な街。そんな魅力ある神戸
のまちづくりに、遊覧路面電車は大きな役割を
演じてくれることでしょうか。そんな神戸への思
いをお話ししていただきました。

遊覧路面電車への思い

片山 神戸市の都市交通とコンパクトシティと
いう構想が2000年に打ち出されました。ちょ
うどその前年に神戸デザインナース協会の中で、
それぞれの路面電車に対する思いを形にしてみ
ようと、会員から文章やデザイン化したもの
を集めていました。これはただ路面電車のデザ
インをやるうというのではなく、公園・都
市の再生という流れのなかで、都市における人
間性を重視し、文化都市にふさわしい路面電車
を走らせようという思いからでした。神戸は随
分以前に路面電車が廃線になりましたが、そう
いうノスタルジックな意味合いばかりではなく
新しい町づくりの一環とした考えではじめまし
た。

上川 新しい町づくりはとても大切なことだと
思いますね。神戸は震災から8年半経っていま
すが、なかなか目に見えた活性化がないように
感じます。神戸港をにぎやかにするという面か
ら、路面電車を走らせるのがいいのではと考



片山 功

小西 美鶴

登 正治

上川 庄二郎



えています。今日本全体として物を造らない国になってきており、貨物も工場も海外へ流れています。神戸港は香港に匹敵するヤード面積を持っているにもかかわらず稼働率が低く、それに対して香港は神戸の9倍の稼働率というのが現状なんです。以前は貨物中心の港で市民所得の7割を稼いでおり、効率的に稼働すれば香港と同じだけの働きができるのに、今の貨物量ならヤードは半分以下ですむのではないのでしょうか。これからは貨物だけの港ではなく、水辺に人を寄せる開放された港にしていかなければならないでしょう。やはり観光で盛り立てていかなければいけない時期にきています。そのため

には何か目新しいことを始めなければいけません。だが、他がまねできるようなことではだめなんです。それは日本の三大美港のひとつであるきれいな港をもっているということと、ダウンタウンとひつついた神戸港という利点を最大限に活かすべきだと思います。しかし、中突堤を中心とした港湾エリアは、高速道路と国道42号線が道をへだて、ダウンタウンから港へ行きにくくしています。近が行きにくいということ解消するため、レールを敷いて、安い料金で乗ること自体が楽しい電車を走らせ、三宮・元町・神戸から港へ行ける道筋をつくる。これはよそではできないことです。水辺をもっと活用し、客船を呼び込みぎやかになればと願っています。

小西 私は公園や町づくりの仕事をしています。震災後、早くもにもどさないといけないというところで頭がいっぱいで、道を直したり、町並みを整備していました。やっとじっくりと考え

る気持ちのゆとりができ、再生する神戸に新しい風を吹き入れる路面電車をデザインしてみました。海のブルー、港の赤、山の緑、そこに黄色い路面電車が走る。遠くからもよく見えて、楽しいから乗ってみようという路面電車です。乗っている時間が短いので、立って景色を楽しめる、全面ガラス張りしてみました。

登 私は川崎でオートバイのデザインを30年間やっておりました。2年前から、オートバイ以外の仕事もしています。最近の工業デザインは物をつくるというだけでは済まされず、企画から販促まで、最初から頭に描いて企画していかなくてはなりません。路面電車も電車をデザインするだけではなく、町の景観も考えそこに電車が走るという位置付けで考えてみました。神戸は大人びた雰囲気町のだから軽い感じのイベント的な電車でなく、根付いた文化のある町にふさわしいイメージにあったデザインにしてみました。パリアフリーの観点から低床式にし、横揺れカーブ対策として1本レールを用いています。真ん中にレールがあれば座席が中心に集まり、ゆったりと座れて安定性ができます。レールが1本走るだけで景観が変わりますよ。

上川 構想として思い浮べているのは、広域交通のターミナルと港が結ばれるということですね。長期的には新神戸を出て北野町・元町・神戸港と山の手と浜の手が結ばれるようになればいいですね。サンフランシスコのケーブルカーのようになればいいなあ。今は車社会になっており、中心市街地の荒廃がすすんでいますから、車を少々排除しても路面電車が町の景観と溶け合い、都心に人を呼び込みたいものです。町づ



くりの手段として港とダウンタウンを結び、交通機関だけとしてではなく、電車に乗ること自体が楽しい電車、目的地に行くことが目的でなく乗ることが目的のような路面電車になればうれしいですね。

片山 私は路面ということにとでも大切な意味があると思います。路面は路地とつながっていることから、路面電車は人の生活とくっついていきますから、ある場所の中で生活したり、ものを見てまわったりするのに最適な乗物ですね。昔から神戸は新しいものを取り入れてきた町なので、電車は必ずしもレールが無くていいのではないのでしょうか。神戸の町は横に長く、東西を結んだ町なので、物流の手段として車を排除するのは難しいと思います。レールをひくことによって起こる渋滞をさけ、自動車のいいところ電車のいいところを取った、電気自動車を連結して走らせるのもひとつの手だと思えます。現在ではコンピュータで制御して後ろも前も同じ動きができ、実用化されつつあるので、実験的な乗物としてぜひ取り入れたいです。楽しくて面白い乗物なのでガラスを大きくし、ロスは出ますが半分は外を向いて座れる座席にしたいですね。地形的なことも考えて新しい技術を活用し、狭い道でも角の多いところも走れる電車が理想です。動力源が電気であつたら電車なので、レールの上を走らなくてもコンピュータ制御できる軌道を走ればいいと思いますよ。低床の点からタイヤ径30センチでいけるので乗り心地もいいし、レールを敷かないほうがいいかなと感じます。

上川 どうしてもレールがなければいけないと

いうことでもないのですが、メインには一本は通しておいて、実際レールが敷きにくいところもありますから、サイドを補うというかたちでレールをひかないところがあってもいいと思いますよ。仮にそういう工事が始まり、路面電車を走らせるという話題が出ただけで、神戸港が面白くなりそうだということで、神戸で仕事をしたいという人が集まって来ると思います。そこでコンペをして、いいアイデアを持った人に仕事してもらえれば、神戸に興味を持った人が集ってくる呼び水になるのではないのでしょうか。確かに財政は苦しいかもしれませんが、町おこしに必要な最小限のお金は使う必要があると思いますよ。神戸港まで元町からだ30億円、三宮からだ50億円はかかりますが、これからの神戸の街の活性化のために、過大すぎる金額なのか、そのくらいかけてもいいのではないか、その判断を神戸市にもしっかりしてもらいたいと思っています。

登 レールを敷くとしたら、神戸港から元町へ向かい鯉川筋を通り山手幹線に出て、NHK前から東へのびていくというルートになるんですね。

上川 鯉川筋に通るということによって、トアウェストももっとにぎやかになるでしょうね。

夢ひろがる神戸

片山 これはちょっと大胆なアイデアですが、観光という点から考えて、夢風船を新神戸からそごうの上へつなぎ、そごうから大丸、大丸から海へと神戸を空中でつなげたら絶対に喜ばれるという気がします。あれも電車ですからけっ



こう面白いんじゃないかなあ。

小西 神戸の面白さといえば、だいたいのところへ歩いていけるといって神戸ならではのスケール感ですね。食材にしても南京町もあれば、輸入品を扱うお店でイタリアのパスタやオリーブオイルも売っています。旧居留地でおしゃれなお買い物して、北野で食事したあと港でデートするにも歩いて行けますからね。その歩くという次ぎの移動手段として路面電車があればいいと思います。私たちの父の時代は新開地が今の三宮のようににぎやかだったと聞きますが、私たちの世代にはノスタルジックな町というよりも、新鮮なところに感じます。オールドタウンの方まで路面電車がのびればいいですね。神戸の違った顔も楽しんでもらえるのではないのでしょうか。

登 今年も神戸デザインナース協会でフォーラムがありテーマは『祭』です。神戸の祭をテーマにするとちょっと難しいので、「集い」というくくりを考えています。今は鎮守の森がないので鎮守の森の社にみんなが集まり楽しめたらなと思っています。都市に入る時に見えるシンボリックなものがいいですね。癒しと環境をテーマにしたエレベーターなどを使わずに歩いてあげられる塔。たとえばスペインのサグラタファミリアやイタリアのドゥオモ、ケルンの大聖堂のように町の顔として、よそから来た人に自然と共生した神戸をアピールできるのではと思っています。

上川 細長い町だから、市内にいくつもポイン

トをつくらなくてもどうしても分散してしまいます。人が集まるためには目立つポイントを真ん中にし裾野を広げて行き、遠いところの人が来て楽しめる町にしたいといけませんね。

小西 私はしばらく大阪に住んでいましたので、神戸というと外国の匂いや新しいもの、どんな国のものでもたいていはあるように思います。そんなところによそにはないものを感じますね。文化的にもいろいろな人が住み、ファッションもさまざまです。これからは古い異国情緒だけでなく空港もできますから、新しい町、新鮮で面白い町になるでしょうね。そして何よりも美しい神戸であってほしいですね。

片山 それから有馬をたくさんの人に利用してほしいです。外からのイメージでは、神戸のなかで有馬が占める位置は大きいですからね。でも有馬街道は渋滞の道ですし、車で行く駐車場が少なく道はせまい。電車は神戸電鉄しか乗り入れてないですから、神戸の縦の道の開発も必要です。昔、神戸は兵庫港からはじまり、新開地へと発展していき、だんだんと東へ広がりました。これからは人の動きから始めて、明石の魚棚から、須磨浦、そして新開地・神戸・元町・三宮、東の酒蔵へとつなげ、そこに有馬を結び付け、横長の帯に縦をうまくからめていければと思います。

登 ロープウェイで、新神戸から生田川の上を通り空港まで結び空間のよさを楽しむのも楽しいと思いますよ。

——どうもありがとうございました。これから神戸の活性化のために、ご尽力下さい。



海 船 港

魅力あるウオーターフロントづくり その③

文・上川庄二郎

絵・柳原良平



ロイヤルバイキングサン

第二回では、遊休化したこのウオーターフロントという大きな産業遺産を、有効に生かすべきときが来たと述べた。今回は、これについて考えてみよう。

三、神戸を集客都市に！

激しい都市間競争の中で神戸が勝ち抜いてゆくには、他の都市に真似のできないような差別化された集客都市づくりをしなければならぬことを前号で述べた。そして、神戸ならではの観光資源として、中突堤を中心にしたウオーターフロント、旧居留地、北野町界隈、六甲山を取り上げた。

中でも、神戸のウオーターフロントは、これを持たない都市とは自ずと差別化できるし、他の港町と比べても格段に優位性が高い。その分神戸は有利なはずである。また、神戸港は、函館、長崎と並び三大美港と称されてきた。しかし、後背人口は、神戸が断然多い。神戸よりも後背人口の多い横浜や大阪はどうだろう。この二港は、神戸をはじめ三大美港と比べれば見劣りもするし、神戸の方がウオーターフロントとダウンタウンの距離は断然近い。その上横浜港は、東京湾を出ればすぐ太平洋であるのに、神戸港はすぐそこに風向明媚な瀬戸内海を擁するという利点を持っている。

こう見てくると、今の神戸港は観光資源としてとらえると、磨かれざる金剛石といえそうだ。とすれば、この金剛石を磨かない手はない。幸い神戸のイメージは港であり、異国情緒であり、お洒落なファッションであり、都市像は観光都市、国際港湾都市である。これらを逆手にとって、従来のような囲み込み型でない形のテーマパークを神戸港を中心に展開することを考えてみてはどうだろう。差別化された空間になること請け合いです。

少し楽しい夢を見てみよう。港には毎日のように大きな美しい客船が停泊している。それだけで絵になり、ウオーターフロントは非日常の空間になる。加えて、マリーナには帆を休めるヨットやクルーザーがひしめいている。そんな素敵でアメニティ豊かなスポットに、朝市が立ち、フィッシャーマンスワーフが賑わい、メリケンパークでは日常的にライブミュージックが演奏（若手新進演奏家による無料演奏）され、そこに多くの家族連れや、多くの若者・恋人たちが集まってくる。一寸したコーナーには、大道芸人がいて、それを取り巻く人ばかりで周囲は活気に満ち溢れている。まさに港が劇場化し、エンターテイナーとなる瞬間である。そんな噂が噂を呼んで、他所の「まち」からも多くの人がやってくる（近者説、遠者来）。こんな夢が目の前に実現できれば大成功である。

それでは、こんな夢を実現するにはどうすればいいのか。それには、幾つかの条件整備が必要だ。まずは、①複数の魅力あるアトラクション（ウオーターフロント、旧居留地、北野町界限など）と広域交通結節点（新神戸、三宮、元町、神戸）を結ぶ移動のための交通手段を整備すること、次に、②移動手段としての交通手段が、乗って楽しいアトラクションであること、③賑わいのあるスポットをさらに高める、④大型観光船のターミナルをタウンタウンに近接させる、⑤神戸港発着のクルーズ客船をもっと増やす、⑥瀬戸内海を、神戸の前庭にする、などが考えられる。

①、②について考えてみよう。現在、市内のアトラクションと広域交通結節点は必ずしもうまく結び合っているとは言いがたい。ループバスが走っているではないか、と言われるかもしれない。しかし、所詮バスはバスである。ここで、市電時代を思い起こしてみよう。



中突堤
メリケンパークオリエンタルホテル前に停泊する『飛鳥』。

市電は、レールそのものが案内標識だった。街角の案内標識や道路標識の何倍もの効果があった。バスに変わって、レールという案内標識がなくなり、乗り場が分散して分からなくなってしまった。毎日乗る人以外、三宮のバス乗り場の分かれる市民が何人いるだろう。今、ヨーロッパやアメリカでは十数年前から路面電車が見直され、一旦廃止された都市で復活し、トランジットモールを導入するなどして中心市街地の活性化に貢献している事例が多い。もちろん新しいタイプのもので、LRT（ライトレールトランジット）と呼ばれる。日本でもLRTを導入しようという動きが見えはじめ、お隣の岡山では線路増設の前に先ずは車両から先に導入し、デモストレーション効果をねらっている。他に、広島、熊本など数都市で導入され、あ



ハーバーランドより神戸港を臨む
停泊しているのは『ばしふいっくびいなす』

るいは導入が検討されている。

神戸でも、このLRRTを導入して、アトラクションと交通結節点を結んでどうかと提案したい。とりあえず、第一期として、ハーバーランド・中突堤⇕元町・三宮を結び、次いで北野町⇕新神戸と結んでゆけば、当面の南北交通が弱いとされる問題は一応解決する。東西間については、引き続き検討してゆくこととしよう。出来上がれば、サンフランシスコのケーブルカーを彷彿とさせる楽しい乗り物になり、LRRTそのものがアトラクションとなる。ここで初めて、ダウンタウンとウオーターフロントの融合が実現し、この一帯がテーマパークとなり、劇場化しエンターテイナーとなる条件が整うこととなる。

しかし、港を劇場化し、エンターテイナーにするには、単一の機能だけでできるものではない。様々なアトラクションが数多く集積（重層化）することによって初めて可能になるものである。

金剛石は、磨かなければ光り輝かない。しかも、他

面削りであればあるほどさらに輝きを増す。このためには、多種多様な研磨材（他所多様なアトラクション）が必要になる。

先ずは、客船ターミナルをダウンタウンに密着したウオーターフロント（中突堤、一突）に移すことから始めよう。また、ウオーターフロントにコンドミニウム群を取り入れよう。ウオーターフロントは人が住んでこそウオーターフロントである。これが温泉付きであれば、なお言うことはない。クルーズ好きのリタイヤ組や、文筆家、音楽家、画描さんといった人たちが、終の棲家として移り住んでくれそう。

一突から四突にかけての串形突堤は、原型のまま生かしマリナー化しよう。これには、既存の倉庫、港運関係業の方々にもご理解ご協力をいただかねばならない。神戸港から沖釣り船も仕立てよう。フィッシャーマンズワーフや朝市のようなものも視野に入りたい。メリケンパークを野外劇場化して、大勢の市民や若者の集まる広場にしよう。人が集まること、賑わいを作る原動力なのだ。こうして、既存のハーバーランドから第四突堤までのウオーターフロントを一体化しテーマパーク化してゆこう。

ただここで若干問題があるのは、メリケンパーク・一突間に第五管区海上保安本部と水上警察があつて、折角のウオーターフロントを分断していることである。これは、何とか解決する方法を見出さねばならない。

④以下については、次回で述べることにしよう。



■かみかわ しょうじろう
1935年生まれ。神戸大学卒。
神戸市に入り、空港対策室長、消防局長を経て定年退職。現在、関西学院大学、大阪産業大学非常勤講師。



豪華客船に乗って、神戸から八丈島へ。普段我々があまり馴染みのない船旅。神戸からこんなツアーがあるんです。



誕生日にはピクリケーキが



船から八丈島に「さよなら」と声をかける

クルージングを楽しもう!! ぱしふいっくびいなす 八丈島ツアー

今回は、神戸つ子スタツフが神戸港発の客船「ぱしふいっくびいなす 八丈島ツアー」に同行取材。八丈島への客船の船旅を紹介します。

まず神戸港から船へ乗船。温かいスタッフの迎えに感激する。スタツフのサービスはすみずみまで行き届き、とても心地いい時間を過ごすことができる。目的地へ向かう船内では、様々なイベントが企画され、お子さんから年配の方まで楽しめるようになっていいる。また船内には、様々な施設があり、プール・スポーツデッキ・シアター・展望風呂・ラウンジ・オープンバー・ピアノサロン・カジノなどなど、快適に過ごすことができる。船内の生活は、まさに「至れり尽くせり」。朝、昼、晩の3食以外にもモーニングティー・アフタヌーンティー・夜食などサービス満点。太りすぎないよう気を付けて。

翌朝、目的地八丈島に沖に到着。オプショナルツアーもしくは、個人で八丈島を散策。自然に恵まれた島を大いに満喫したようです。

お問い合わせ先

日本クルーズ客船株式会社

☎06-66347-7521

http://www.venus-cruise.co.jp/

ゼネラルマネージャー
田中誠一さん インタビュー



ぼくが一番思うのは、こういったクルーズをより多くの人に知ってもらいたいということです。特に若い世代の人たちにクルーズの楽しさを味わってもらえたらと思っています。

船旅の良いところは目的地まで、ゆっくりと行き、その間有意義な時間を過ごす。自分のしたい生活をしながら目的地にいけることです。飛行機ではこれではできません。食事を楽しみ、プールで遊んだり、船内のイベントに参加したり、お酒を飲んだり、映画をみたり、いろんなことをして、夜はゆっくり睡眠をとる。気がつくとも目的地に到着。目的地で楽しみ、帰路についてもゆっくりと。本当にすばらしいときを過ごせるはず。ぜひ多くの人に一度、経験してもらいたいですね。

「やまなみ・しまなみ発見ツアー」



呉ポートピア港



江田島海軍兵学校



音戸の渡し舟



アレイからすこじま



瀬戸内の島々



きのえ温泉 清風館



船の資料展示収蔵展示施設



入船山記念館



竹原市町並み保存地区



安芸津町での魚料理



古代塩づくり体験館



松涛園

広島県へ、9月3日〜5日にかけて旅をしてきた。広島へは、新神戸駅から新幹線で1時間30分と意外と時間的に近かった。3日は、夜の広島市の街地を散策。広島市民球場の前に原爆ドームがあり感慨深いものがある。

4日から5日にかけてはバスツアー。広島市から東南の呉市へ。そこでフェリーで江田島町に入り、江田島旧海軍兵学校へ。ここでは、昔は海軍、現在は海上自衛隊の学生達が学び各部隊へと配属される。戦没者の書や遺品などが歴史を物語る。呉は海は穏やかで美しく、海軍の名残りが残っている。多くの事を考えさせられた。

5日は、竹原市の江戸時代の情緒あふれる町並みと、蒲刈町で古代塩づくりを体験。そして素晴らしい庭園と屋敷の松涛園。2日間で数多くの観光の名所を巡った。その中でも、瀬戸内の島々が見わたせる、きのえ温泉が最高に気持ち良かった。(大原)

■問い合わせ

㈱広島県観光連盟

☎082-221-6516

ドビュッシーのピアノ曲に「沈める寺」というのがある。昔、フランスのブルターニュ地方に「イス」という街があった。海抜ゼロメートル以下の土地であったので巨大な堤防に囲まれていた。「イス」はとても繁栄したが、どこかの国と同じように快楽ばかりを追い求めていたので、神の怒りを買って、海中に沈められてしまった。

うんと年月が経ったある日、漁師が錨を上げようとしたところ、なんと「イス」の街の教会が引っ掛かって海上に姿を現わしたのだ。そして、その教会の中からは祈りの合唱が聞かれ、漁師達が驚く中、教会は再び沈んでいった。

西宮市の新西宮ヨットハーバーのゼロメートル以下の場所に、兵庫県がほくのために「イス」ならぬ「サブトン」のような7m平方の四角いコンクリートスペースを作ってくれた。そして、そこにはくはクレインに吊られてベイントの入ったガラス瓶を落として、百年かかって描画している。テーマは「平和の証し」。平和が百年続けば完成するという絵画である。広島に投下された原爆を製造したマンハッタン計画の物理学者・バーンポーターが、ほくのアトリエを訪れ「平和」の運動を続けるように依頼し、その後彼は亡くなったが、これらの経緯からほくはアートで平和運動

を続けている。
この「イス」ならぬ「サブトン」の設置してある西宮に、8月6日台風10号が上陸し、潮位が上がって絵は海中に没してしまった。「サブトン」には何年もかかってその上からベイントを投げるので、海水をかぶっても絵の質は損なわれないが、広島・長崎の原爆祈念の最中の水没である。台風が去った後、絵は再び現れたが、これは平和への「警告」にちがいない。「イス」の教会のように祈りの音楽を作ってくれる人が現われてほしい。



8月6日水没した「平和の証し」

(写真は西宮ヨットハーバーの村山邦宣専務が台風の中撮影したものの)

沈める絵

8月6日「平和への警告」

嶋本 昭三



でん太の 教えてドクター



その① 医療は患者のもの

お話／足立優歯科診療所 足立 優 院長

でん太 ドクターこんにちは、おじゃまします。

Dr. しばらくやねえ。でん太何かしんどそうやけど、どないしたん？

でん太 はあ、夏の疲れが今ごろ出てきたみたいで、今も病院の帰りなんです。

Dr. そら大変やったねえ。それでどこが悪かったの？

でん太 それがあんまりよう解らへんのです。かなり混んでたから、診察時間も短かったし、初めて行った病院で、あんまりいろいろ聞くのもヘンかなと思って、お薬だけもって出てきました。

Dr. そうか。でもね、自分の体は自分で守るという意識をしっかりもつようにならんといいかんないよ。

でん太 へえー、そうなんや。病気の時は、お医者さんの言うこと聞いてたらええもんやと思てたわ。Dr. でん太の考えはパターナリズムという医療倫理観によるものやね。わかりやすく言うて専門家である医療者が「患者さんにとつて良い事は何か」という判断をして、その結果にたどり着くように善意的に誘導していくといういわゆる保護主義やね。

でん太 何か難しそうでよう解らへんわ。解り易くいうとどういうこと？

Dr. たとえば、判断力のない子供にとって何が大切かは、親権を持つ親が判断し、子供に良かれという思いで手段を決定し、子供の行動を制御するみたいに、医療の現場では、「素人である患者に医療上の判断をさせず、患者の利益を鑑み、より良い結果へと誘導していくことが医療者の務めである。」ということやね。

でん太 そやから、お医者さんの言うことちゃんと聞いてたらいいっていうことでしょ。

Dr. 今はね、医療倫理における世界標準は、そのパターナリズムを否定しているんや。第2次世界大戦後「人権問題は国際社会全体の問題であり、人権保障が世界平和の基礎である」という考え方が主軸になっていてね、昭和23年第3回国連総会「世界人権宣言」としてすべての人民とすべての国が達成すべき共通の基準として採択されたんや。その後この考え方があらゆる人権に関わる場面へと展開され、医療者が患者さんと関わる上での基本的な倫理基盤としてはその後のさまざまな会合で具体化されてるよ。その中でも1995年に世界医師会総会で採択された「改訂リスボン宣言」は、患者さんの権利や医療者の義務について詳しく規定して、パターナリズムに基づく関わりではダメと言っ

改訂リスボン宣言 前文

医師、患者、社会一般という3者間の関係は近年著しく変容して来ている。医師は常に自己の良心に従い、患者の最善の利益のために行動すべきであるが、患者の自律と公正な処遇を保障するためにも同等の努力を払うべきである。本宣言は医療従事者が是認し、推進すべき患者の主要な権利を全てではないが列挙したものである。医師およびその他の医療に従事する者・機関はこれらの権利を認容し擁護する共同の責任を有す

る。法律や行政、あるいはその他の機関や組織が患者の権利を否定する際には、医師はその権利の保証あるいは回復のため適切な手段を講じねばならない。ヒトを対象とする生物医学 (biomedical) 研究 (治療を目的としないものを含む) においても、被験者には研究を目的としない通常の治療を受ける患者と同等の権利や配慮が与えられるべきである。

ているんだよ。

でん太 ふーん。患者には人権に基づいた権利があるっていうことなんやね。

Dr. そうやね。医療は患者さんのものなんや。だから患者さんは自分に必要なケアを自ら判断し、自分で責任をもって決めるというのが世界的にみても主流になってきているんだよ。

でん太 ドクター、それは素晴らしいことと思うけど、そのためには、自分が一体どんな状態なのか、どのような治療法があるのか、どの程度の状態にしたいのかということがはっきりわかってないとあかんねえ。そんな細かいこと、お医者さんにいろいろ聞いてもかまへんの、嫌がられへんやろか？
Dr. そんなこと何にも心配せんでもいいよ。カウンセリングやガイダンスといった技法を取り入れ、患者さんがどうしたいのかをちゃんと聞いたたり、適切な情報や問題解決策を確実に提供するのには、医療者の義務やからね。
でん太 患者の権利と、医者 の義務か。双方の意識を向上させて理想の医療が行われるわけやね。
Dr. そう、健康管理は自分自身の問題やから、医療者の力を借りつつ本人が決定していくという、新しい医療倫理に基づくスタイルが広がればいいと思うよ。

でん太 ドクター、ほくもこれから必要なことは遠慮せず、何でも納得するまで聞く良い患者になるわ。またいろいろ教えてね。どうもありがと。

Dr. 今度は、インフォームドコンセントについて、話そうかな。
でん太 うん、楽しみにしてるね。

■足立 優 (あだち まさる) 1960年生まれ。大阪歯科大学卒。1988年米国留学後、神戸市東灘区に足立 優歯科診療所開設。ヘルスカウンセリングの概念を基盤とした自己決定に基づく予防管理中心型の歯科医療を展開する。

足立 優歯科診療所

神戸市東灘区岡本1・3・33
TEL 078・411・0024 FAX 078・411・0056
e-mail.adachi@kba.att.ne.jp
http://ado.pr-business.net

※改訂リスボン宣言、患者の権利、これからの医療スタイルなど、くわしく情報をお知りになりたい方は、Dr.足立までお問い合わせ下さい。

■ 名器に会う ■

西行庵 鉄斎絵茶碗



胴に彫文「鉄斎」と「エ」

青木重雄

〈ひょうご愛陶会顧問〉

世の中、時に拾い物あり。拾い物などという心安っぽい感じもするが、時にはでっかい拾い物に出会ってびっくりさせられることがある。この西行庵もその一例といえよう。七、八年前のことだが、京都へぶらりと出掛けた時、四条五条あたりの道具屋をのぞいて、最後に円山公園近くのよく行く某店に立ち寄ったが、そ

こで偶然拾ったのがこの西行庵主作の茶碗であった。といっても、この茶碗の松と家の絵付けが富岡鉄斎描くところと知ったのは、帰宅後三、四日もしてからだからのんびりしている。前に来た時李朝の茶碗を見て付けて少々高かったが買って帰ったので、今度は和物でも結構何かないかといういろいろ探したが見付からない。

だがせっかくなのだからと思っ探し出したのがこの茶碗であった。全体にごつい感じで、どこか素人くさい作りだったが、胴体と高台の周辺に釘彫りで文字が書かれている。京都というところは、戦災から免れているので大阪や神戸と違い、いろいろな有名、無名器が残されている。僕はこれらの文字をよく読まずにどうせこれもちょっとした素人細工に毛のはえたぐらいの人物の茶碗だろうと考えて、ともかく手土産ぐらいに考えて安く買って帰ったのである。店の主人も「まあ、お帰りになってゆっくりお調べ下さい。」と、少しも気にせずあっさりしたあいさつだった。

それがなんと絵付の松と釘彫りの家が鉄斎描くとこ



西行庵鉄斎絵茶碗高台 釘彫り左から「洛東西行庵主小文造之」

ろと気付いたのだからびっくり仰天である。「鉄斎」すぐ横に「え」と記されているのだ。さらに胴体と高台の周囲に釘彫りで書かれているのは「洛東西行庵主造之」（高台）と「願はくは囲爐の元に冬須まむその極月の餅つきの頃」と彫られているのだ。これでわかった。どうやら西行庵主手造りのこの茶碗に、鉄斎が頼まれて絵付をしたというわけなのである。

僕はさっそく円山公園内の西行庵を訪ねたが、なるほど古い屋形の入り口らしいのがこの絵で、古木の松が屋形一体をこれも絵の通りに覆っている。茶碗を手にとり取って眺めるや、向こうもびっくりの状態で「だれがこれを持ち出したのか」と庵主は険しい顔色に変わったが、ともかくやきもきの末、どうにか箱表の裏側に次の文字を書いてもらうことが出来たのだった。「宮田小文法師手造 富岡鉄斎画御茶碗 西行庵 花輪宗恵（西行庵）印」である。その後これが縁で、一度同庵名物の「夜咄席（よばなしのせき）」（奥の一畳が道安囲いになっており、また床の壁に円窓が切つてあるのは、これは夜の学会で月の光を採り入れるための工夫という）へ呼んでもらい、妻と二人でこの茶碗でお茶をよばれて帰ったものだった。縁は異なるものというが、これなど正にその通りの実例であろうが、出来ればいつでもこの茶碗をお返し願いたいと言われた庵主の言葉が常に思い出されてならない。

(15・8・5記)

■高さ 8センチ
口径 8・5センチ